

校 園 名 : 秋田大学教育文化学部附属中学校

所在地 : 〒 010-0904 秋田県秋田市保戸野原の町7-75
電話番号 : TEL : 018-862-3350 FAX : 018-863-2507

記載日 : 平成28年 5月 7日 記載者 : 丸山 琢磨 記載者役職 : 副校長

貴校の校風、おおまかな特色について :

学校教育目標「あの丘を越えよ～高い志をもち一人一人が未来を拓く」のように、一つの「あの丘」である憧れの先輩を越えようと「先輩越え」を合い言葉としている。そのエネルギーの源は代々生徒たちが口々に伝えてきた「自発・創意・責任」の附中三精神である。その見通しと道筋は、駅伝・マラソン大会や体育大会の応援合戦、総合的な学習の時間の研究活動、合唱コンクールの練習などの学年の垣根を越えた伝統的な縦割り活動にある。後輩たちは、先輩たちの意欲や向上心など常に高みを目指すエネルギーに肌で触れて、憧れ、その先輩を越えようと努力する。先輩たちは、「いつかは自分たちを越えよ」と後輩たちを激励し、そうした活動や場面が多数ある。互いに励まし合い、高め合い、磨き合おうという校風が培われている。上級生になるほど落ち着き、受験が近づいた3年生の学級でも、張り詰めた強い緊張感の漂う空気よりむしろ和やかでみんなで一気に上り詰めようという勢いのある雰囲気を感じられる。

毎年、1年生と2年生は、「立志の式」をそれぞれ年度末に行い、保護者の前で自らの志を語る行事を実施している。昨年度同窓会で、多くの同窓生が、この立志の式で語った職業に就いていることに驚き、保護者の間でも話題になったと聞いている。

貴校の卒業生の活躍状況について :

現在「鳩翔サポートセンター」を設立3年目となった。卒業生2人にコーディネーターとなっただけ、本校の強みの一つである卒業生との繋がりをもとに、本校教育の根幹をなすキャリア教育に協力していただくとともに、同窓会組織の強化を推し進めていただいている。いわば、学校支援本部及び同窓会の活動本部である。

これまで、本校卒業生であるピアニスト、作家、ビジネスマン、会社社長を紹介いただき、進路講演会を実施してきた。また、創立70周年を記念して、各学年同窓会代表より同意を得て、新たに同窓会名簿を作成することとして準備中である。創立50周年までは、同窓会名簿を作成していたが、それ以後は個人情報保護法の影響もあり、同窓会名簿そのものが存在しない。今回は、70周年記念を機会に卒業生の繋がりとともに、現役の本校生徒との絆も強めて行きたい。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について :

本校勤務経験者の組織があり、事務局を本校に置いている。毎年行われる公開研究協議会の際には、招待状で参観を呼びかけたり、近況を知らせてもらったりしている。また、研究協議会後には総会を実施して本会の1年を総括しながら、褒賞や褒章された方々の祝賀会を催している。様々な情報は事務局である本校が収集しているが、会員からもたびたび提供されることがある。

会員の情報は、任意によるので全て把握しているわけではない。

附中 飛翔 PROJECT

さらに高く羽ばたくための
三つのプロジェクト

【秋田大学】

- 学部改組～英語教育、理数教育の充実
- 教職員大学院設置準備
～附属学校園の効果的な活用
- 地域貢献の推進

教育目標

—高い志をもち 啓発し合い 未来を拓く—

あの丘を越えよ

- ① 豊かな感性と知性の育成
- ② 人間尊重の精神と幅広い徳性の涵養
- ③ 克己心の醸成と体力の向上

【秋田県】（基本計画より）

- 全国トップレベルの学力と高い志を育てる教育の充実
- 心を育み自立を支える教育の推進
- 地域とともに取り組む多様な教育の展開

国際理解教育を推進する

- 国際理解を深める
- 英語力を高める
- 人間関係形成能力を培う
- 国際交流室の設置
- 海外の中学校との交流
(オーストラリア)
- 小・中兼務の英語教師

感性・心力を高める

- 思いやりの心を育む
- 感動する心を育む
- 自己統制力を育む
- キャリア教育の推進
- 東北復興に向けた活動
- 学校行事の充実

理数教育を推進する

- 科学を愛する心を培う
- 問題解決能力を高める
- 挑戦する心を育む
- 理科実験助手の活用
- 大学教員の授業
- 各種科学コンテストへの挑戦
- 先端研究所の視察

学習環境の充実

ICT環境の充実

- TV会議システム
- ・ 日常的コミュニケーション
- ・ 遠隔地と結ぶ授業

図書館の充実

- 蔵書管理システム
- 冊数増計画
- 企画展示

大学がもつ教育資源の活用

- 大学で学ぶ
- 研究施設・備品の活用

飛翔サポートセンターの充実

附属中学校
学習環境整備
附中学生の指導

附中支援

コーディネーター

名簿登録

情報提供
交流推進

～附中がもつ最大の強みは、人的資源（大学、同窓会、明耕会、PTA）～

教育基本法・学校教育法【目的・目標】

秋田大学附属学校規定【附属学校としての使命】

【学校教育目標】

「あの丘を越えよ」
高い志をもち一人一人が未来を拓く

秋田県の
目指す教育

生徒・保護者の
願い

大学の教育資源

平成28年度
研究主題

高い志をもつ 開かれた個

～社会に参画する主体の育成を目指す協働的な学習～

「授業構想力」
「授業展開力」
「授業改善力」

附中飛翔プロジェクト
心の教育充実
国際理解教育推進
理数教育充実

鳩翔サポートセンター

生徒の実態

これまでの研究

社会的背景

鳩翔サポートセンター



附中教育の一層の活性化のために、附中の強みを効果的・効率的かつ総合的に発揮することを旨とした学校支援組織です。

最大の強みは
人的資源

【目的】人と人とのつながりを大切にした附中教育の創造

- 附中の教育活動の一層の充実・発展
- 協力者のもつ個性、能力、学習成果の発揮の場、本活動を通じた自己実現
- 同窓会、PTA、明眸会の親睦、交流、連携



サポート
内容は?

国際理解教育推進サポート

- A 国際交流室支援
- B 海外交流支援

将来的には学習支援、環境整備支援、安全指導支援などいろいろの可能性が考えられます

キャリア教育推進サポート

- C 職場訪問(体験)学習支援
- D その道の専門家講話

世界中からの
人的ネットワーク
同窓会、PTA、大学、明眸会...

E 図書館活性化支援

心の教育充実

「心のスイッチ」を...

魅力ある大人の姿
～キャリア教育の推進～

- ・学校の外で学ぶ
- ・先輩の生き方を学ぶ

読書活動の推進

- ・「心に響く図書」コーナー
- ・図書館改善プラン

心の教育充実

- 思いやりの心を育む
- 感動する心を育む
- 自己裁制力を育む

東北復興に向けた活動

- ・南三陸町との交流
- ・総合DOVE展示
- ・心のイルミネーション

学校行事の充実

- ・余当の日
- ・表現活動の充実
- ・合唱コンクール
- ・機器的行事

理数教育充実

7時間目の理数講座

- ・生徒は希望者参加
- ・講師は大学教員
- ・大学ならではの内容

科学的資料の整備

- ・科学雑誌を各学級文庫に
- ・科学の新刊書コーナー
- ・科学情報コーナー

理数教育充実

- 科学を愛する心を持つ
- 問題解決能力を高める
- 挑戦する心を育む

秋田一受けたい理数の授業

- ・夏休みに小学生対象に
- ・大学と附属の教員が協力して教材開発
- ・8月4日、4講座開催

各種コンテストへの
チャレンジ

- ・科学の甲子園
- ・塩野直道賞
- ・数学オリンピック
- ・ロケットコンクール
-

国際理解教育推進

国際理解教育推進

- 国際理解を深める
- 英語力を高める
- 人間関係形成能力を培う

海外交流

- ・オーストラリアとの交流
- ・スポーツ・文化交流

国際交流室の開設

～学校内に外国をつくる・
世界につながる窓をつくる～

- ・留学生、ボランティアの協力...日本語以外でコミュニケーション
- ・TV会議システムによりオーストラリアとの生徒と会話

海外図書の充実

小・中兼務教員の配置

- ・小学校の教科英語への対応
- ・中一キャップへの対応
- ・教員研修の場を提供

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

地域の学校評議員においては、あいさつが立派で礼儀正しくしっかりした生徒のいる学校ということで、評価は高いと聞いている。地域の生徒は多いが、全体的に市周辺部或いは、市外からも電車で通学して来る生徒もあり、地域との繋がりという点、決して強いとはいえない。

近くて遠い存在というのが、現状であるとする。それ故、飛翔プロジェクトをもとに、鳩翔サポートセンターを設立し、コーディネーターは卒業生でもあるので、地域と関係の深いお二人にも協力していただき、地域との繋がりを深めようとしている。

具体的には、本校の根幹に据えるキャリア教育充実を目指す一環として地域に根ざした職場体験学習を実施している。本校地域には、市の中心部にある通町商店街があり、コーディネーターの方による働きで少しずつ訪問体験できる職場の数を増やしていただいている。また、毎年恒例の駅伝・マラソン大会では、学校周辺を中心に走路として使わせていただいている。そうしたことにご恩返しとして、夏季休業中にボランティア活動として、清掃作業を附属特別支援学校と共同で実施している。毎年実施し、根付かせていきたいと考えている。多くの方に地域の学校として認めていただけるよう、地道に可能な活動を継続していきたい。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

本校の強みは、大学との連携・協力、幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校の四校園が同じ敷地内にあることである。また、本校教育活動には、欠かすことのできない支援をしていただいているPTA、社会の第一線で活躍している多数の人材とその卒業生のつながりである同窓会がある。さらには、本校の教育活動を経済的な側面から支援していただいている教育後援会、人材資源としての大学の協力、本校を職場とした教師間のつながりである明耕会と幾重にも本校を支援してくださっている組織があることの強みは大きい。こうした組織をひとつにまとめて本校教育を支援する組織として平成26年に立ち上げたのが、鳩翔サポートセンターである。



この組織を核にしてさらなるキャリア教育の充実を目指し、職場体験や現役の社会人先輩を招いての進路講演会（写真：平成27年UKジャズダンサー鈴木祥高氏）、国際交流室を設置しての留学生スタッフとの英語による交流、保護者による図書館ボランティアと司書による学校図書館活性化などを推進してきた。

2年目となった昨年度は、設置者である大学からの予算措置が継続したことと、他校園からの強い要望で、本中学校一校から附属四校園への活動へと取組を拡充したことである。特に国際理解教育では、大学院生の国際理解教育コーディネーターを介して、前年度よりもさらに充実した活動を四校園で進めることができた意義は大きい。

また、中学生にとって学習と両輪ともいえる部活動も本校では充実しており、その魅力は大きいといえる。平成27年度は、剣道部女子が東北大会優勝、陸上部男子が東北大会優勝を果たしている。文化部では、合唱部が県大会金賞及び東北大会銀賞、吹奏楽部が中央地区大会金賞を受賞している。部活動ではないが、ジュニア科学オリンピックで、実技部門で全国第4位、一昨年は第3位であった。活動時間は公立学校に比べて短いですが、活動内容の濃さで群を抜いている。

保護者や小学生からは、自ら目標をもち、選択して入学を希望したという自覚の大きさの意義を強調する意味は大きく、公立ではない主体的な進路の選択肢としての存在感は増している。